



家道訓

四二

總論
用財

9
3455
2



3455
2

49

藏島

家道訓卷之三

貝原篤信編

人の子孫より老いずるあり先祖の家法よく
守りて失ないされんたゞしき子孫才力は
とゞくもよくあるとぬりていつまでも
長久なり。その家法よく守りておこなふ
人祖よりそれゆゑの才智あり。そのとわき
何よりあるは多くある也。祖孫よくあるは
賢い世のありは人乃くの善ある人なりと

家道訓三

びくく下級も又人のよいて人偏る人
 偏るハシマリよりナカガのよく情なるをうけいへく
 とも人偏れニナるはつとていふやと地の
 うとていふてあされとも人さるはいや
 めくくびくくは又人のよくあつて人のよ
 みわのををニナて思イカつていふやと人うけいへく
 已ヨシてあつて人とおさびるを失ふつとて
 いふて思イカつていふは必国はうけいへく
 とあつて人とおさびるを失ふつとて

乃ち其の如くをとりて見ら
しむる。又其の如く考へた
りし。恥辱にありし方と云ふは、
心服して、下知はあやまり
らば、後害として、誠とす。
り人を知る感通より。

家におさじつある。下情よみ通するより

とど。下情よみ通すとハ下つゝ乃人のう

まひくる。ち曲曲のありきぬと云

ふとれいふきなりわさつひ出くるもの也
 無事もあくほいせうえうさうさうく
 さじれいさうさうく顔之推が物を物
 来いさうえ子氏第張よさうゆさうも
 此さうりさうさうさうさうさうさうさ
 用いさうさうさうさうさうさうさうさ
 丁れいさうさうさう

古語よ。一物あつて一果とさうさうさうさ
 多黙是物なりとあさうさうさうさうさ

さは必し物もさうさうさうさうさうさ
 いさうさうさうさうさうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさうさ
 すれいさうさうさうさうさうさうさ
 人父のあさうさうさうさうさうさ
 職とあさうさうさうさうさうさ
 さうさうさうさうさうさうさうさ
 してさうさうさうさうさうさうさ
 ねい物をねいさうさうさうさうさ

きううざんはいついふくぬくもく
やうてはう富きなりとも其利を
作しんくすうにむらうく通ひるや
こま掃落^{サウ}は家人のつとめをく修^{シユ}理^リも
ひうく破^{ツキ}乃^ノ費^{ツイ}多^タされと又其利を
とて常^{ツネ}其利をたむがなりとて一^ツ事^{コト}も
河^カのふなり。あは只堅^{カタ}くいつたに
りきりたれを中^{ナカ}に目^メをきりては
破^{ツキ}と多くとてある人^{ヒト}にせられ

仁^ニをくともうのふ子孫のふと
りして。若^{ニハ}くはひ人をたてて一^ツ家^カ
と多く子孫はあさんうへ。材^{サイ}を
廣^{ヒロ}く若^{ニハ}くはひ又母兄^{ボウ}親戚^{シンセキ}のふ
く。さうは人のふとす。い^イ知^チを
一^ツもはれ。さうは子孫のふ。破^{ツキ}の
と。其^シを

子孫^{シユン}のふ。あはれ。其^シを
さう。ふ。教^{キョウ}え。さう。て。も。さう。不^フ改^{カイ}

けやう。是も人のつひにあらざるが
 ひくはぐのよた人に必くの如く世と
 まする。このちる人。うゑとさびるに
 わづらうたれられしつゝ、世
 の人を多く見るふ。世はうき、われ
 ども人もまじりあひまれなり。一人も
 有ては是も人のつひにあらざるを
 へり。世とわかれざる人あり。吾人は
 る人。人乃世といひぬ。まじりたる人。

家通言
して世に迷つる者。神佛よりなり
つゝいのりをしてさういふものじつは阿
年つゝといふも世を迷ふをさういふ又チ
まゝ人々を迷ふものといふなり。今時の
風流は世に迷ふをわづらひて世に迷
くもの世に迷ふものといふなり。又
まゝといふもの。世に迷ふもの。世に
ても世を迷ふもの。世に迷ふもの。世
の世に迷ふもの。世に迷ふもの。世に

理をさういふもの。世に迷ふもの。世
又世の言に迷ふもの。世に迷ふもの。世
凡家の世に迷ふもの。世に迷ふもの。世
家と世に迷ふもの。世に迷ふもの。世
世に迷ふもの。世に迷ふもの。世に迷
てよくいふもの。世に迷ふもの。世に
と。世に迷ふもの。世に迷ふもの。世
世に迷ふもの。世に迷ふもの。世に迷
をさういふもの。世に迷ふもの。世に

いづれにやふかきうあつ人いさひ
ふかきうあつ人いさひ

夢は居ても國はありても。吾は此の道に
 志す。人にと共にし。まゐる。れは。あ
 つもあつて。吾と汝と。一。く。あ
 り。あ。い。れ。ぬ。ま。の。賢。哲。み。い。さ
 せ。も。若。く。あ。る。ま。く。ち。あ。ぬ。才。藝。
 八。難。る。ち。り。秘。の。面。白。く。さ。れ。る。も。久。く
 習。ひ。ぬ。ま。の。ほ。ろ。け。り。あ。い。い。ん。や。り。ぬ

か。此。智。考。い。も。偏。ち。る。病。あ。れ。じ。と。す。
と。き。う。て。い。う。に。家。の。ま。と。ち。る。人。は。じ。を。お。
め。く。一。親。戚。家。人。ま。う。を。よ。叶。い。う。と。う。
こ。う。う。て。堪。忍。さ。れ。い。家。道。和。睦。を。し。
園。よ。も。ま。よ。う。と。も。さ。る。も。又。を。と。ま。る。よ。
一。物。ち。う。う。は。あ。る。と。れ。少。を。用。て。あ。る。
お。ほ。を。て。救。め。や。と。れ。物。を。う。め。く。と。う。
こ。物。は。あ。る。と。う。と。う。み。う。う。よ。う。と。う。
り。あ。あ。い。多。く。つ。や。一。も。ま。の。ま。ま。

花。の。と。れ。る。よ。は。さ。る。花。の。よ。に。と。あ。そ。
い。と。う。い。じ。る。い。事。多。く。ち。り。を。れ。う。
い。と。あ。ん。心。緒。と。そ。こ。れ。よ。ま。い。よ。い。あ。
と。若。く。は。救。め。ち。り。
園。ま。う。う。草。本。ま。う。う。と。お。じ。う。い。又。あ。け。
ま。い。じ。り。う。い。ま。と。う。い。只。し。り。さ。う。の。
よ。は。果。樹。た。ま。果。樹。ふ。く。枝。く。田。河。の。推。
め。と。お。め。う。一。又。果。と。救。め。う。て。あ。あ。
う。そ。れ。く。家。あ。と。り。と。あ。一。人。よ。あ。う。く。

能むものは。葉樹ハ杉松 榎金松 杉 榎 松 冬
 葉樹ハ冬ハ竹と木方に多くうすく冬ハ風
 と雪にまじりて樹木に傷み。おまよハ柳 榎 松
 榎ハ冬ハ木方に多くうすく夏ハ
 蚊多くてうすく又葉ハ日月の影あり
 宅中ぬくもの新くく市ふものは。榎ハ冬
 葉樹ハ冬ハ木方に多くうすく夏ハ
 葉樹ハ冬ハ木方に多くうすく夏ハ

卷之三

家道訓卷之四



貝原篤信編

用財

家の事皆法あり。法はあつて人ハさるるまで
 さるるなり。法とあつて只一人ハさるる
 せぬ。人ハさるるなり。あつて只一人ハ
 ぬ。人ハさるるなり。あつて只一人ハ
 ぬ。人ハさるるなり。あつて只一人ハ
 ぬ。人ハさるるなり。あつて只一人ハ

代々々家とやうなるあじくは徳乃細々
雑ザツ養ヤウとほづかやういふもあらん。ま
ゝ家はぬり道とてやかりてちんち
是人はむ家のゆ也。かゝるる人々
家とやいひる主人は日夜家とてくは
めくおこしにたりとてあはれけを
いぢくといはれや。いふもつゝ候約を
し。勤と候との二の家とやいひるあ
らう。は二乃道なり。いふもつゝ候

財用とてり。かゝる勤と候との二の道を
かふふ。ふとふに。かゝるるあはれけ
より。是勤候とてり。ふ心はち
勤候とてり。いふもつゝ候。財福
て家とたも。財を人よりあう。す
る。いふもつゝ候。いふもつゝ候。い
答。いふもつゝ候。いふもつゝ候。い
ふ。いふもつゝ候。いふもつゝ候。い
武具とてり。いふもつゝ候。いふもつゝ候。い

せむ人のもひともいふかゝるさぐあり
 材を用ふふをばんとて大よいなる故に少の
 費ともかゝじくし終とももりくむじふと
 ぬとておれ費いふいとも大なる言れい。
 一時は父母材を用んとおむつ。必ね強い
 てよくする人。やじふをばんとてさくさく
 費とくしふ。ふの費とばんとて百ふりて
 もれえたる費一ふりてそれより甚しく材
 をゆするはくじくし。

[illegible]

是天道より理されぬ。當時月々
さういふおきも。後は必天乃やぐと
うへー是萬金紙とて神佛よるつ
いのるぬ百倍より新橋あり。是にぞ
いかにいふのや。これ人のとてえ
のめりゆりあり。さうなるに
材を用ひはれ。紀乃王制より。曰。材用
と制よりふ。さういふ紙よりて物と事と
あり。さういふ年。此業は今のちなる所の材乃

か限とさういふ。さう限のぬすはさうい
ふ年の^{ホウケダ}ぬす。いふて。それは毎てまひ
まてつ。いふ用ひ^{ゴニダニ}か限と定め。いふ
るくは。いふ用ひ^{三本}事を節め。さういふ
事の材乃をさういふ。さういふ用ひ。い
ふ。さういふ。さういふ。材不足。さうい
ふ。困窮あり。さういふ。是と入をさうい
ふ。物と。紙と。さういふ。さういふ。費紙と
さういふ。さういふ。紙と。さういふ。紙と。さ

く多し。凶年。火災。盜賊。疫病。死。亡。軍
用。は。休。つ。て。是。万。世。統。を。用。ふ。の。良。法。也。
つ。め。一。二。三。年。耕。て。必。一。年。の。食。あり。とい
ふ。此。三。年。農。人。二。三。年。回。つ。て。一。年
の。食。の。餘。計。あり。多。く。一。所。の。田。地。に
ふ。れ。二。所。の。ふ。る。も。い。と。れ。一。所。に。ち。り
つ。い。を。残。し。て。用。い。と。二。年。ふ。れ。二。所。の
あり。つ。い。の。餘。計。も。少。く。ふ。た。い。水。旱
風。霜。の。凶。年。は。あ。り。と。五。穀。の。一。と。れ。は

飢。饉。の。患。多。く。故。用。事。う。け。と。士。と。工。商。乃
亦。も。け。計。と。り。と。ち。る。と。一。是。と。り。と。と
る。ふ。つ。め。一。乃。は。い。ず。と。君。より。結。り。る。而
乃。福。を。毎。年。受。け。つ。ら。こ。分。を。用。い。て。一
分。を。は。く。と。二。年。と。用。い。と。一。分。を。二。年
か。と。め。い。と。分。と。る。と。故。り。一。凶。年。は。い。い
ま。う。あ。い。と。も。困。苦。の。一。と。い。な。う。こ
分。乃。一。と。と。二。年。と。い。凶。年。乃。一。と。め。或。あ
火。盜。賊。の。患。と。の。多。と。な。と。け。又。軍。用。り

うねへ人の困窮をとりんぐめなり。是
いめへ材を用ゐるの法は、はをゆるぎ
軍民の困窮ゆるぎて多き程のうまひ
なり。是古今通用とくまひ良し也

元禄年の世の勢が、年々ふふのうまひ必き
みめしむる。ねづついえおひくなりと
ゆるぎなれど、倭約をしひとてゆるぎ
して、只もまゝゆるぎ世の成り、まゝせぬ
まね、人の困窮して、あたまもらうとて、保

よるゝと、あまうつりゆるぎ、倭約の道き
て、はよい必きをやるめりなり。あま
なり、人々もくゆるぎをくみ、人々も
あまのうまひを、はよとまゝくみ、人々
らされど、必らうき、うまひあり、り、
しれい、はよい必きを、あまなり。あ
と、あまなり、はよい必きを、うまひ
理なり、くみ、人々なり。

材の用や、と、あまなり、はよい、あまなり、今、元

二人あり。も亦うけ福の分限も人の口教
も同一く。父のせうする材も同一く。父の傍
物もあひあれたるも同一。然るに家にお
留し又同一く人なり。一人は家にお
り。かゝる不慮なき。一人は遠くせり。
是く。この。たゞ。と。う。そ。利。み。利。を。加。く
て。人。よ。あ。う。う。つ。れ。て。材。と。つ。い。や。け。け。く。
後。い。も。う。れ。る。もの。を。け。け。の。つ。と。年。一。ふ。
屋。や。く。貧。困。い。る。是。を。ふ。救。う。や。材。乃

用。や。う。け。て。あ。い。ま。い。ふ。わ。う。う。た。は
は。と。お。ん。い。う。と。今。を。う。う。じ。や。あ。ま
い。じ。う。ち。ち。り
と。此。の。年。滞。し。て。必。要。と。れ。て。風。露。水。旱
地震。や。う。の。災。い。ある。世。界。の。お。く。く。は
い。ま。れ。ん。必。要。なる。人。乃。ち。血。飲。食。あ。う。
び。て。滞。し。て。必。要。ある。材。資。も。あ。ぬ。く
あ。つ。あ。く。人。は。絶。し。め。く。た。れ。い。滞。う。く
は。自。ら。う。い。う。い。る。も。多。く。あ。る。

人をも一箇をあらうたうと多くてくつり
 へ。是より我一人はあつてゝまゝであつた。多
 く人をとくといふやうなめ。それゆゑにきこ
 まるやうひく。天命はあつてひくはひく
 仁^{ニイ}をもつをせしめて。多きう人をあつて。飢^イ
 饑をもつととくひく。苦しみをもつと
 出てもつて。是よりゆゑにきこるやうな
 かくのうとくあらう。一箇をあらうといふ
 ちからを多くせしめてもつた。

うきくじつと。官^{カン}にちりてもあるた
 民をじつちりやと。尤義とつてたうと。
 礼義とてじつと。術^{ジュツ}は害^{ガイ}ある事皆是
 困窮よりおこる。困窮に候^{コウ}ゆるより
 おこる。ある故^ユに候^{コウ}ゆるとせむ
 死^シ道^{ミチ}なりと
 井^イとて人あなとてうなる物^{モノ}の外^{ソノ}を
 の物^{モノ}をとりたうとせむ。このうと
 なく材^{サイ}のつてえれ

思^{オモ}物^{モノ}は物々用^{ヨウ}ある物とて、
 奇^キ物^{モノ}とて、
 用^{ヨウ}あるものすれり。常に用^{ヨウ}あるもの
 價^{ツカ}の費^{ツカ}はとて、
 用^{ヨウ}あるものすれり。常に用^{ヨウ}あるもの
 志^シる。親戚^{シンセキ}故^コ舊^{キョウ}の事^{コト}を
 志^シる。親戚^{シンセキ}故^コ舊^{キョウ}の事^{コト}を
 志^シる。親戚^{シンセキ}故^コ舊^{キョウ}の事^{コト}を
 志^シる。親戚^{シンセキ}故^コ舊^{キョウ}の事^{コト}を

悪物書籍をとりて置くは物ありや
 とけいふるあつらへりしものなる物
 わくすゑやふ返さず。是又毒とせむ
 ふ道の四六一事なり。其のふとくは
 物を愛く^{カミ}めいなる世にわかれ或ある
 ことかいめ返さばるものなり。よく
 みる人々も。是又よく用ひする也
 商人の目より見て財をあらう。用ひく。そ
 利となるをかせん。そのむきくすのみ高

人の物をうけとるをわしとせしむるは、
商人に財とありてさして利とせしむ
たとい後日か財なく返りあらず
ともなほくのはさるる月々にゆき
利をゆきとる商人乃ちさしむるは、
大なりといふ所の財ありて不自由とて
物をかゝる人へ元より物返しなす
つるものありとてのいされども、
うしとせしむる人乃ちさしむるは

人の書と叫ぶ。わの書成るゝ垂くまふ人の書を
をも二一冊と早く返さず。人の書成るゝて見
す。て久しうめを並にせらるなり。大冊ハシは
五巻も二冊一冊と見ゆ。中冊乃書は
六冊、八冊、九冊と早く返さず。十冊
は十冊、九冊と早く返さず。久しうめを並に
せらるなり。大冊は五巻も二冊一冊と見ゆ。
中冊乃書は六冊、八冊、九冊と早く返さず。

人の書とわくは換汚とくは屋漏ありき
 猶こゝろ嵐ふぶきあり火油ユ臍じ小児のまきねとくは
 まる書にまきよ入るる付取おけりも
 一うらまひけりといふはちしきもあや
 かりと謝しやして返すとくは又面約の一也
 抑も人よ書とくをはりて月ある何事
 をね人といひてさやびて是とい書を
 まる人抑も人といひてさく返りて
 人といひて人よまきと書りてあはれ

